

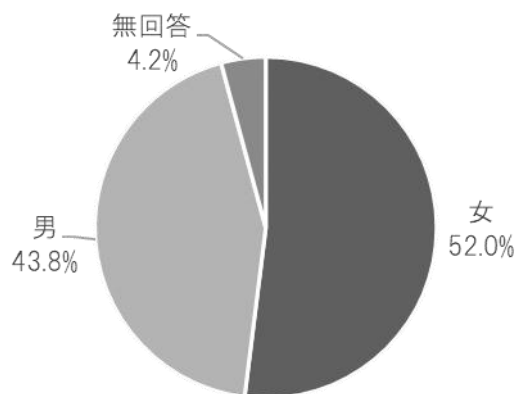
西東京市市民意識調査結果【速報概要版】

1. 調査の概要

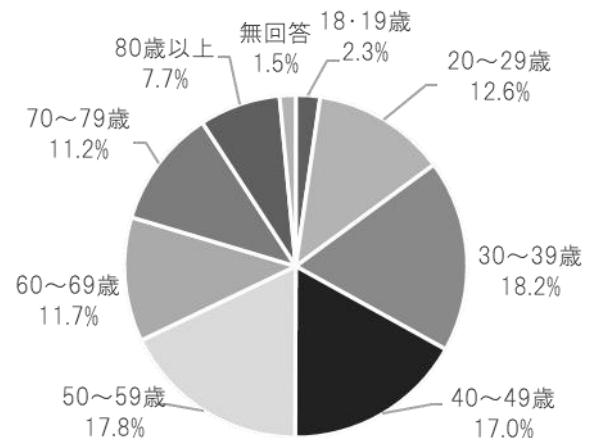
調査対象	住民基本台帳（2021年10月1日現在）に登録された18歳以上の男女
標本数	5,000人
抽出方法	人口構成比に配慮した無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査期間	調査票発送：令和3年11月1日（月） 調査票投函期限：令和3年11月22日（月） 集計対象：令和3年12月10日（金）到着分まで
回収率	回収数：2,443票 回収率：48.9%

2. 回答者の属性

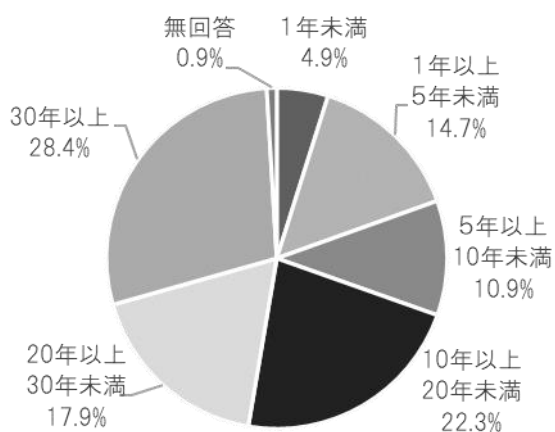
(1) 性別



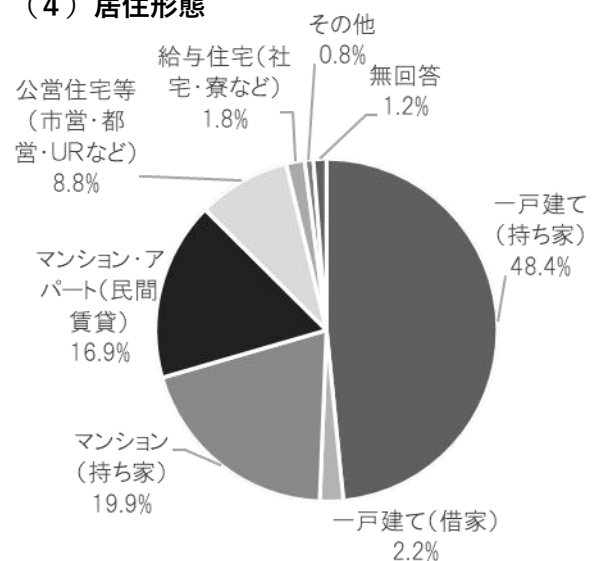
(2) 年齢



(3) 居住年数



(4) 居住形態

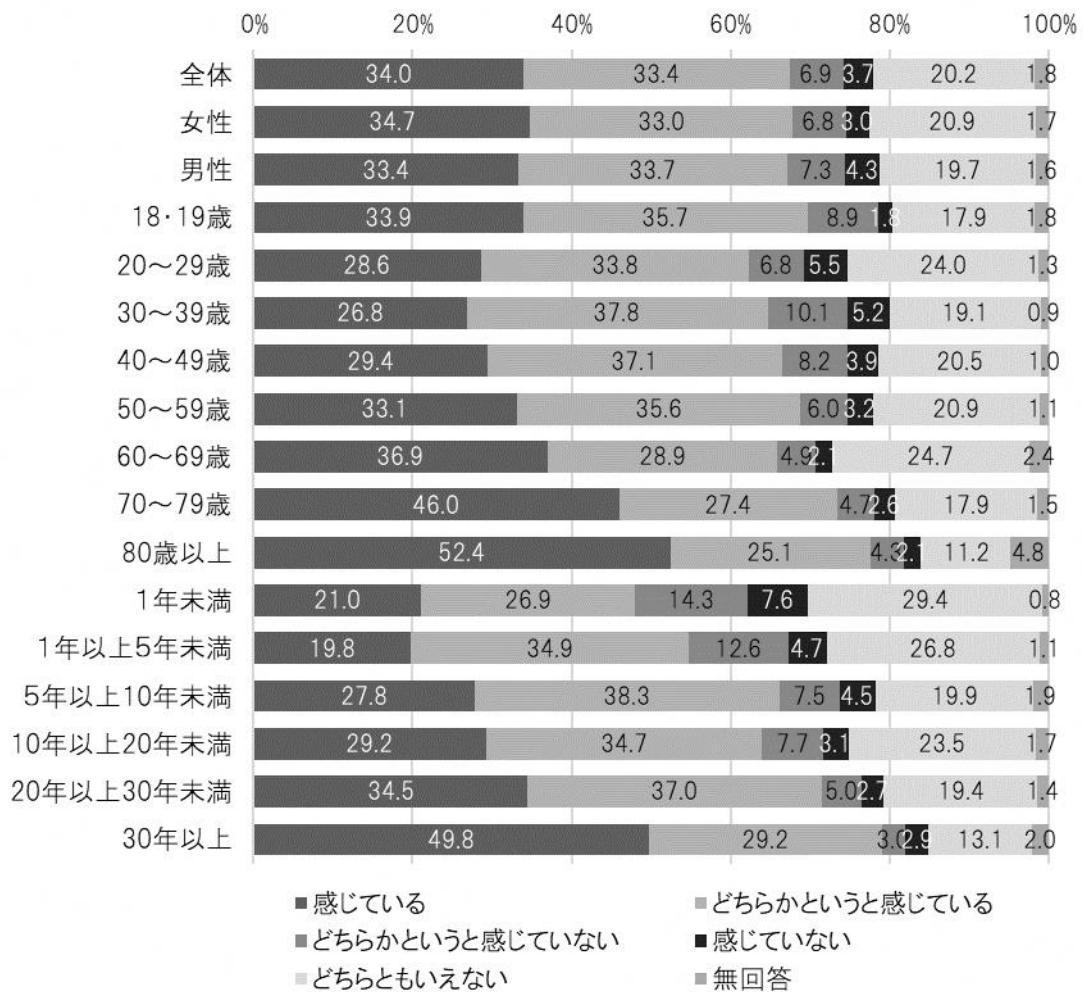


3. 調査結果（抜粋）

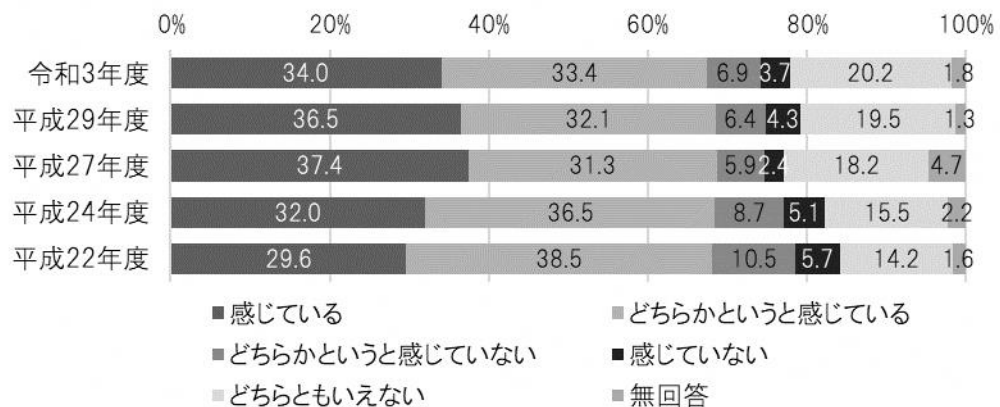
（1）西東京市への愛着度【問1】

- ・西東京市への愛着を「感じている」が34.0%、「どちらかというと感じている」が33.4%で、合わせて67.4%が愛着を感じている。
- ・性別による差はほとんど見られないが、年代が高くなるほど、また、居住年数が長くなるほど、愛着を感じている割合が多くなる傾向が見られる。
- ・経年比較を見ると、愛着を感じている割合、感じていない割合ともに前回より微減している。

<全体・性別・年代別・居住年数別>



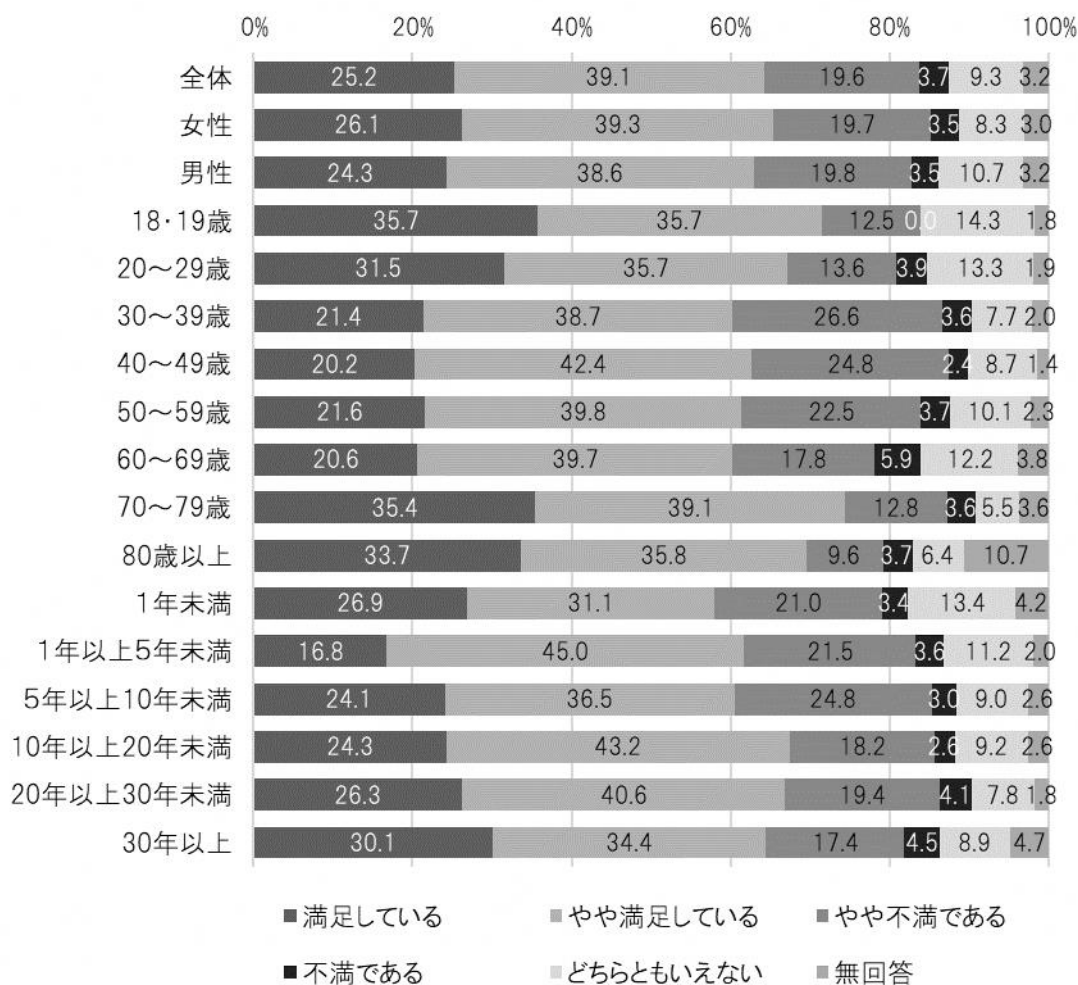
<経年比較>



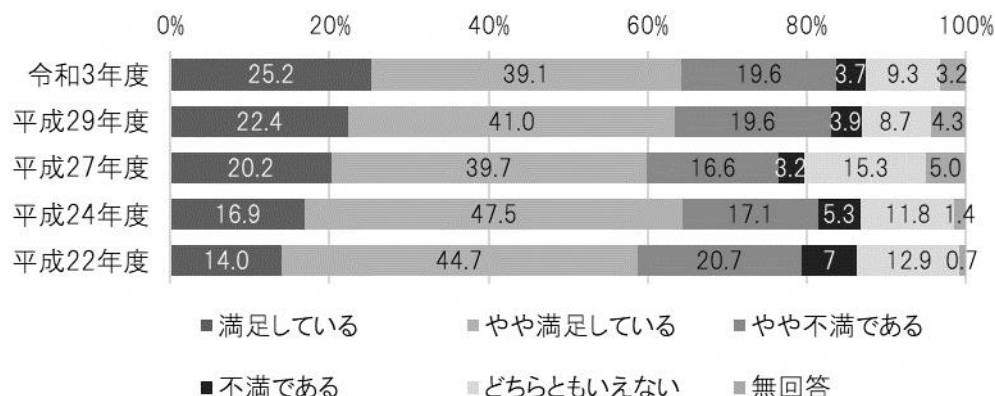
(2) 住み心地【問2】

- ・日ごろの住み心地については「満足している」が25.2%、「やや満足している」が39.1%で、合わせて64.3%が『満足』と回答している。
- ・年代別に見ると、『満足』の割合は29歳以下と70歳以上で比較的割合が高い。また、『不満足』の割合が比較的高いのは「30～39歳」(30.2%)、「40～49歳」(27.2%)となっている。
- ・経年比較を見ると、日ごろの住み心地について『満足』の割合は、前回調査(63.6%)を0.9ポイント上回っている。

<全体・性別・年代別・居住年数別>



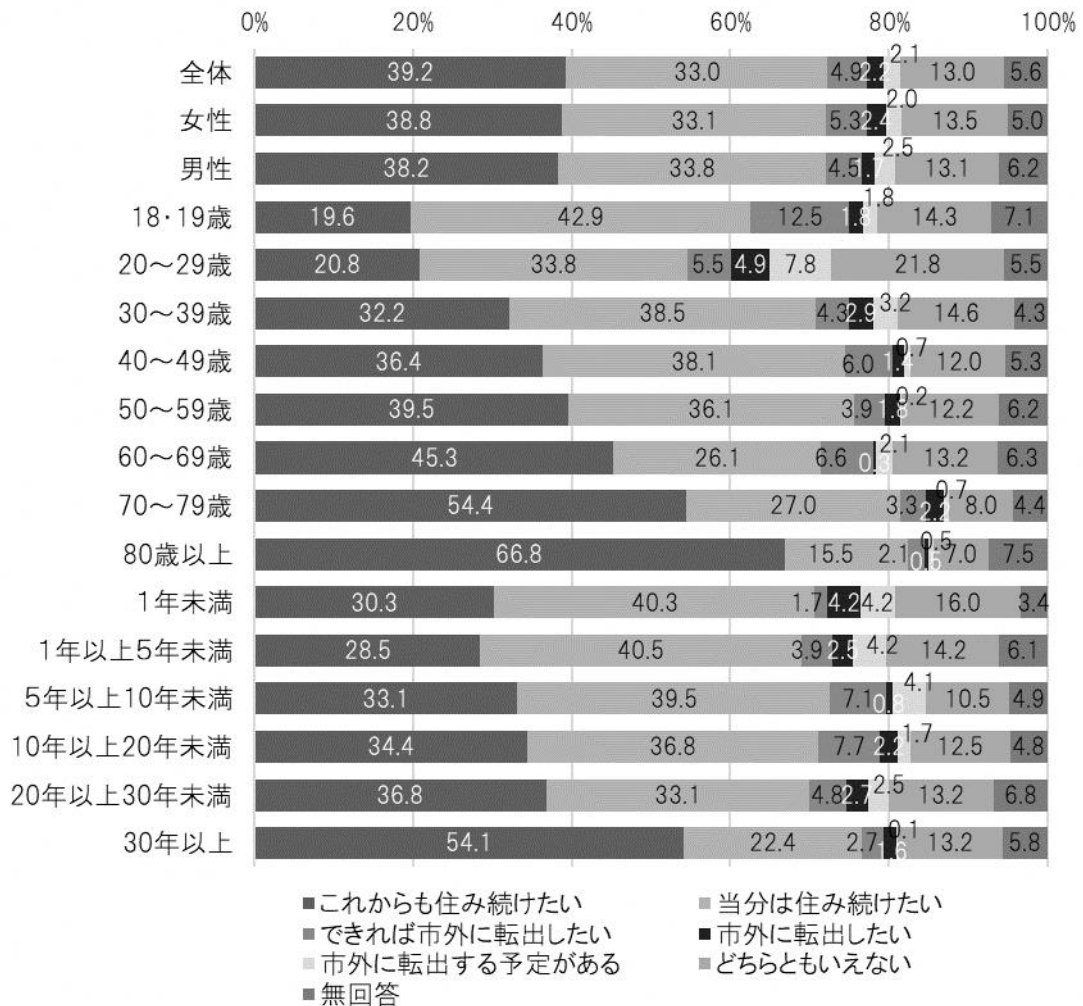
<経年比較>



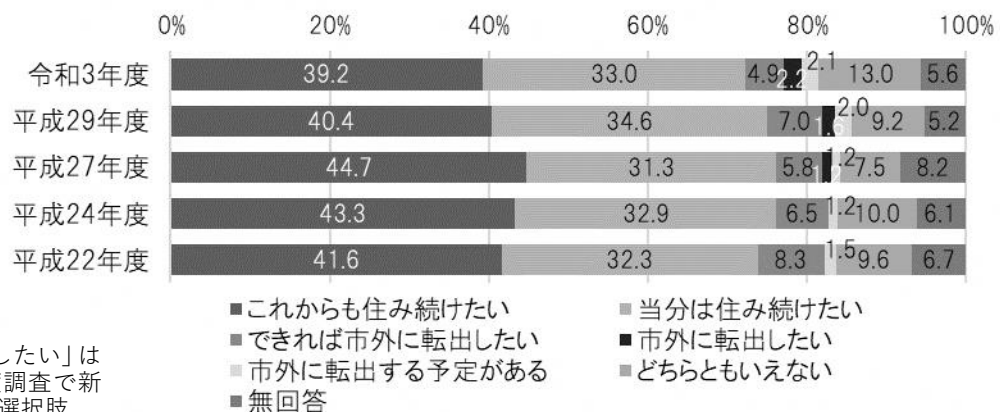
(3) 居住意向【問3】

- ・居住意向については「これからも住み続けたい」が 39.2%、「当分は住み続けたい」が 33.0%で、合わせて 72.2%が『住み続けたい』と回答している。
- ・年代別に見ると、『住み続けたい』の割合が最も低いのは「20～29歳」(54.6%)であり、「できれば市外に転出したい」と「市外に転出したい」を合わせた『転出したい』の割合が最も高いのは「18・19歳」(14.3%)となっている。
- ・経年比較を見ると、『住み続けたい』の割合は、前回調査(75.0%)を 2.8ポイント下回っている。

<全体・性別・年代別・居住年数別>



<経年比較>

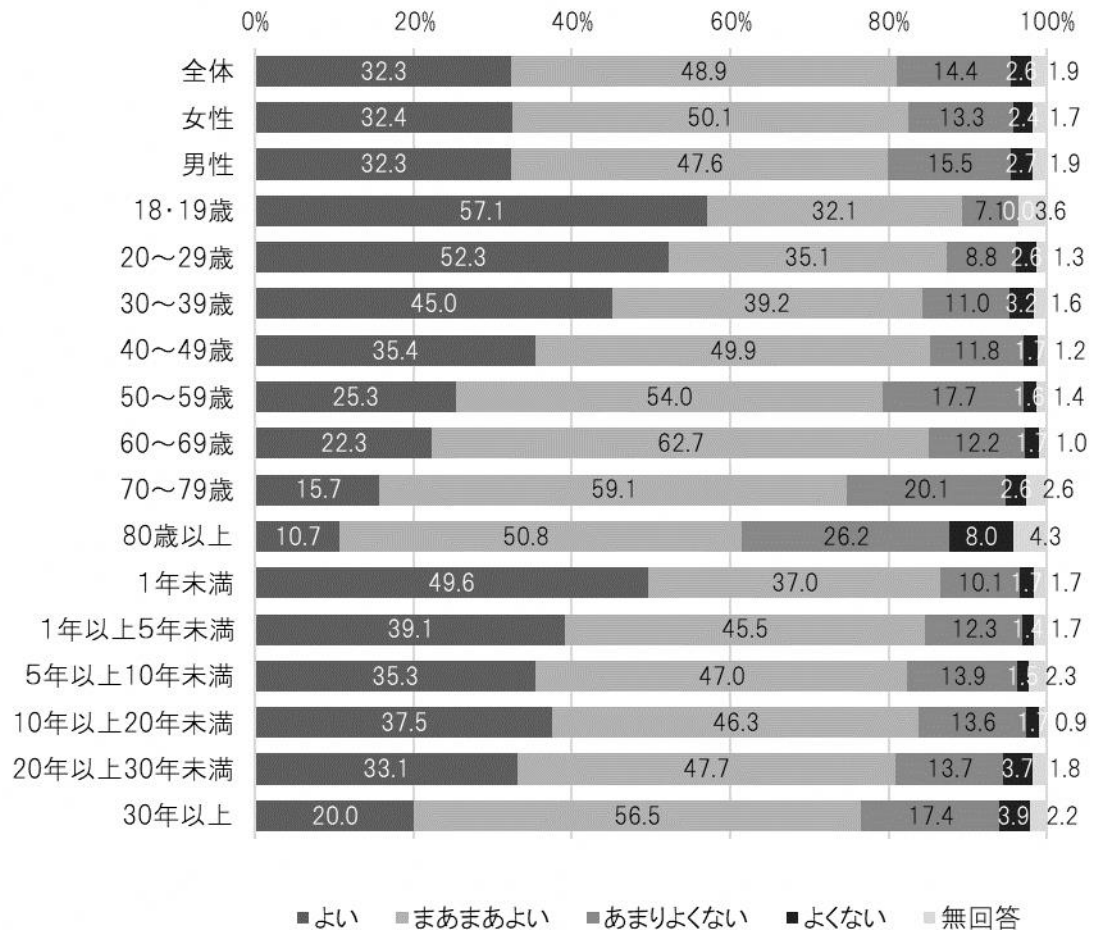


※「市外に転出したい」は平成 27 年度調査で新たに設定した選択肢

(4) 健康状態【問6】(新規設問)

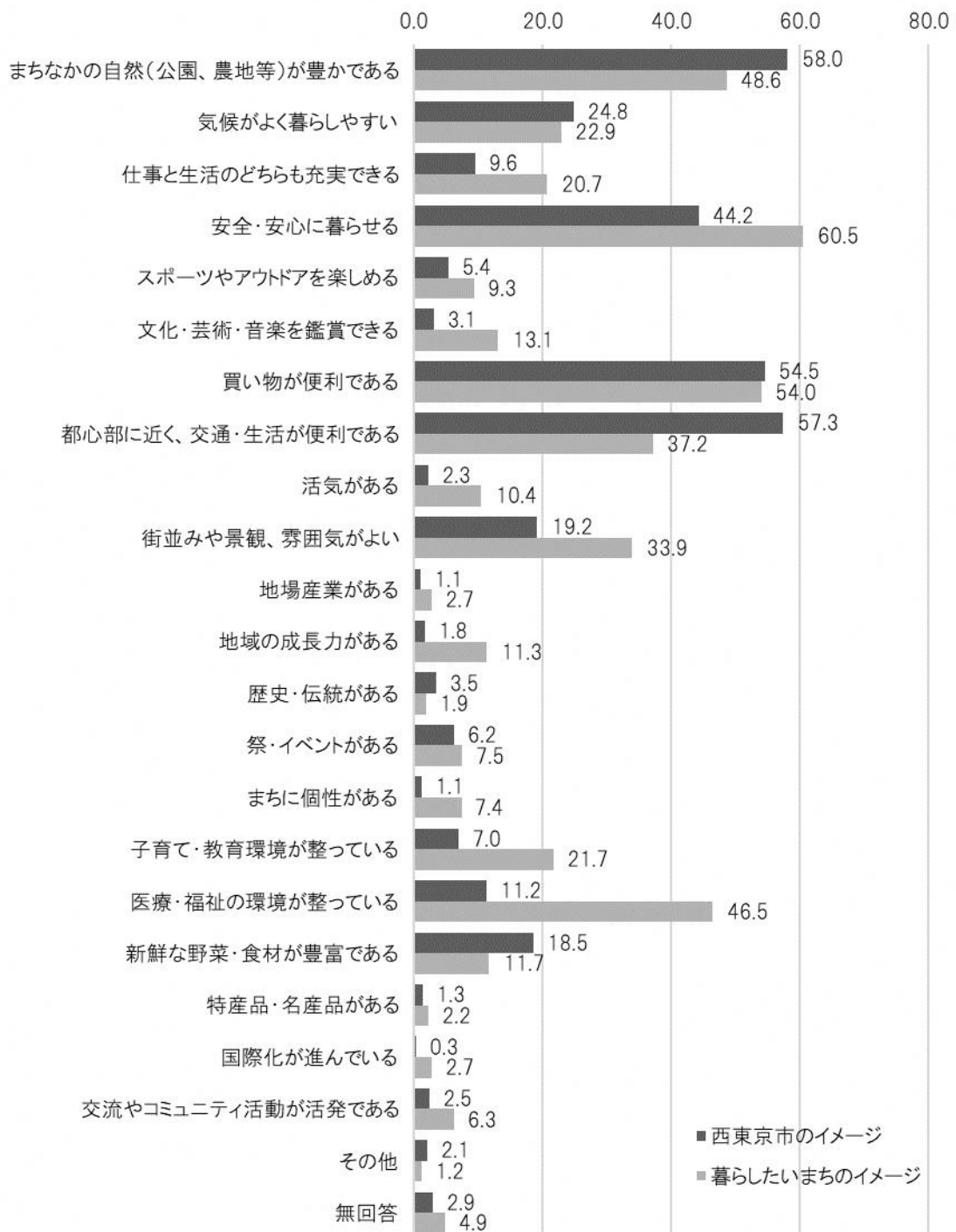
- ・自身の健康状態については「よい」が32.3%、「まあまあよい」が48.9%で、合わせて81.2%が『よい』と回答している。
- ・年代別に見ると、年代が高くなるほど『よい』の割合が低くなる傾向が見られ、「80歳以上」では61.5%となっている。
- ・一方、「よくない」の割合は「20～29歳」(2.6%)と「30～39歳」(3.2%)で比較的高くなっており、若い世代での健康状態の低下が懸念される。

<全体・性別・年代別・居住年数別>



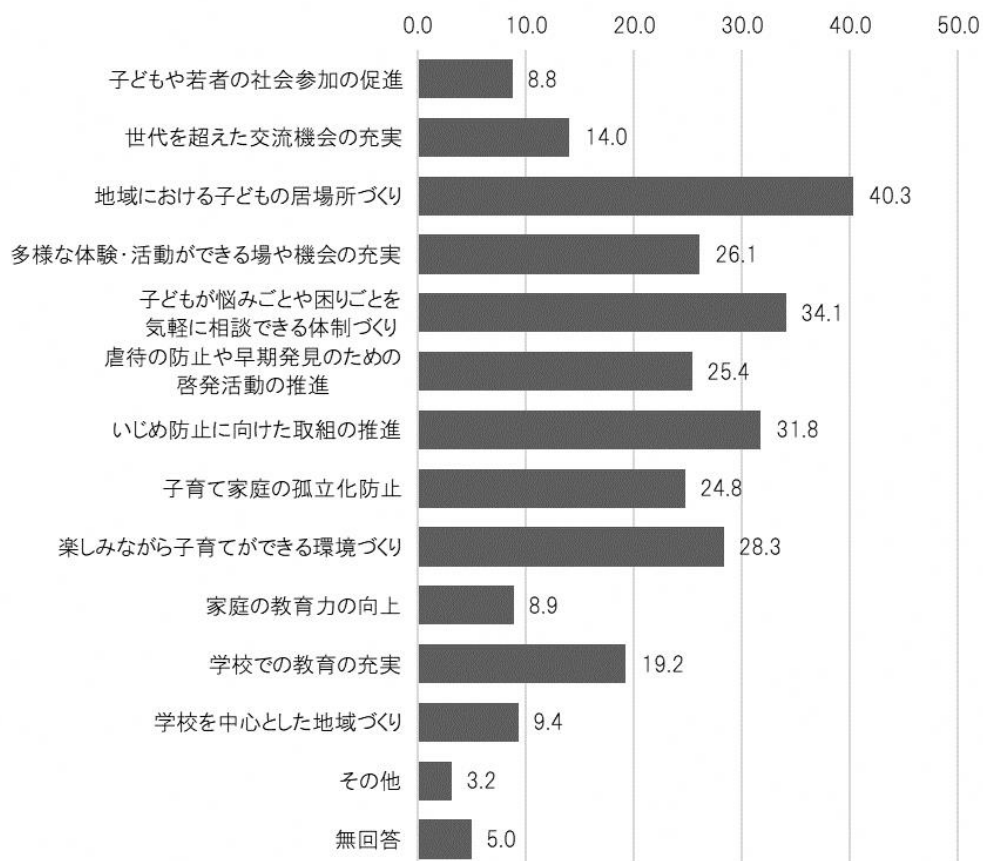
(5) 現在の「西東京市のイメージ」と将来的に「暮らしたいまちのイメージ」【問7】

- ・現在の西東京市のイメージは、「まちなかの自然（公園、農地等）が豊か」（58.0%）が最も多く、次いで「都心部に近く、交通・生活が便利」（57.3%）、「買い物便利」（54.5%）となっている。
- ・暮らしたいまちのイメージは、「安全・安心に暮らせる」（60.5%）が最も多く、次いで「買い物便利」（54.0%）、「医療・福祉の環境が整っている」（46.5%）となっている。
- ・暮らしたいまちのイメージと比較して、西東京市のイメージの回答割合が10ポイント以上低い項目は「医療・福祉の環境が整っている」（△35.3%）、「安全・安心に暮らせる」（△16.3%）、「街並みや景観、雰囲気がよい」「子育て・教育環境が整っている」（ともに△14.7%）、「仕事と生活のどちらも充実できる」（△11.1%）、「文化・芸術・音楽を鑑賞できる」（△10.0%）となっている。



(6) 「子どもにやさしいまち」のために重要な取組【問 10】(新規設問) ※複数回答(3つまで)

- ・「子どもがやさしいまち」になるために、今後重要だと思う取組については、「地域における子どもの居場所づくり」(40.3%)が最も多く、次いで「子どもが悩みごとや困りごとを気軽に相談できる体制づくり」(34.1%)、「いじめ防止に向けた取組の推進」(31.8%)となっている。
- ・それ以外にも、多様な体験・活動の機会の充実や虐待防止や早期発見のための啓発活動、子育て家庭の孤立化防止なども25%を超えており、幅広い取組が求められていると言える。
- ・年代別に見ると、「18・19歳」では多様な体験・活動の機会が上位になっており、20代から30代では、楽しみながら子育てができる環境やいじめ防止に向けた取組が求められている。



<年代別>

※選択肢を一部省略

	第1位	第2位	第3位
18・19歳	地域における子どもの居場所づくり (37.5%) 多様な体験・活動ができる場や機会の充実 (37.5%)		楽しみながら子育てができる環境づくり (33.9%)
20～29歳	地域における子どもの居場所づくり (41.6%)	楽しみながら子育てができる環境づくり (35.4%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (32.8%)
30～39歳	地域における子どもの居場所づくり (43.2%)	楽しみながら子育てができる環境づくり (35.1%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (34.2%)
40～49歳	地域における子どもの居場所づくり (40.0%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (31.6%)	子どもが気軽に相談できる体制づくり (30.4%)
50～59歳	地域における子どもの居場所づくり (42.3%)	子どもが気軽に相談できる体制づくり (36.3%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (32.4%)
60～69歳	地域における子どもの居場所づくり (44.3%)	子どもが気軽に相談できる体制づくり (39.7%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (%)
70～79歳	子どもが気軽に相談できる体制づくり (39.8%)	地域における子どもの居場所づくり (38.7%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (28.1%)
80歳以上	子どもが気軽に相談できる体制づくり (41.7%)	地域における子どもの居場所づくり (27.8%)	いじめ防止に向けた取組の推進 (27.3%)

西東京市中学生まちづくりアンケート結果【速報版】

1. 調査の概要

調査対象	市内公立中学校（9校）に在籍する2年生全員
対象人数	1,374人
調査方法	学校での配布・回収
回答数	1,218票

中学校圏域別回答数

田無第一中（南町）	南部	410票
柳沢中（柳沢）		
田無第四中（向台町）		
保谷中（保谷町）	中部	294票
田無第二中（北原町）		
ひばりが丘中（ひばりが丘）	西部	248票
田無第三中（西原町）		
青嵐中（北町）	北東部	266票
明保中（東町）		

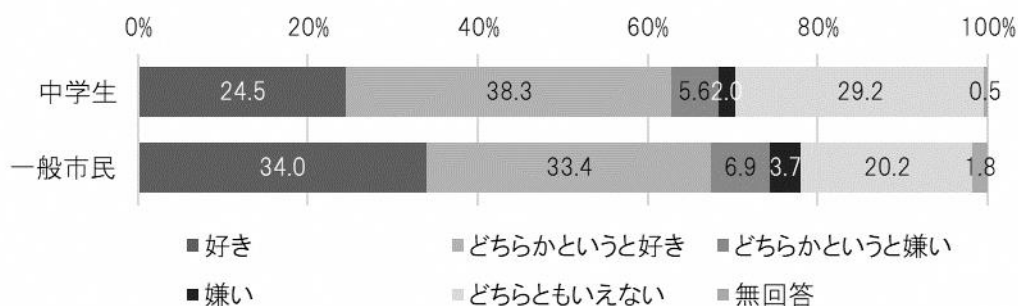
合計 1,218票

2. 調査結果

（1）西東京市への愛着度【問1】

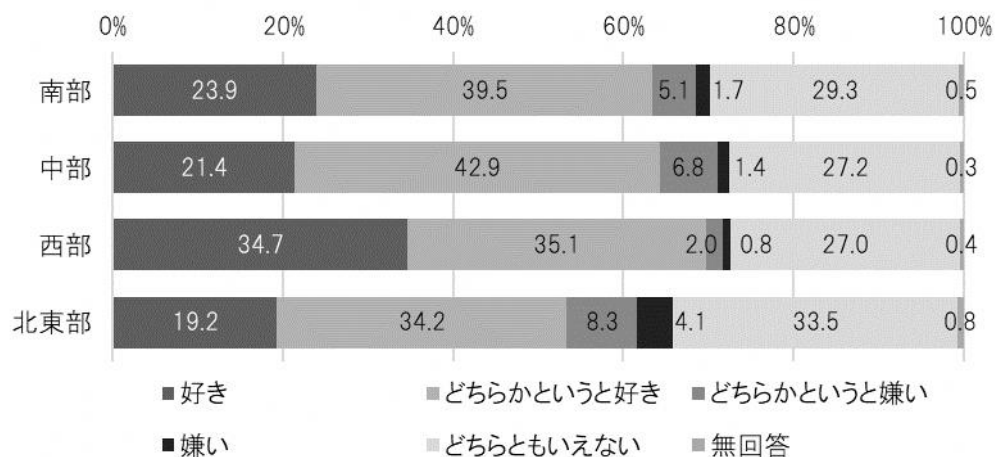
- ・中学生が西東京市をどのように感じているかについて、「好き」が24.5%、「どちらかという」と好き」が38.3%で、合わせて62.8%が『好き』と回答している。
- ・一般市民を対象とした意識調査と比較すると、『好き（愛着を感じている）』と回答した人の割合は中学生の方が4.6ポイント下回っている。
- ・学校圏域別に見ると、圏域によって差が見られ、『好き』と回答した人の割合が一番高いのは「西部」（69.8%）、一番低いのは「北東部」（53.4%）であり、その差は16.4ポイントとなっている。

<全体・市民意識調査との比較>



※一般市民意識調査とは選択肢が異なるため、「好き」＝「愛着を感じている」、「嫌い」＝「愛着を感じていない」として比較。

< 中学校圏域別 >



(2) 大人になっても西東京市に住みたいかどうか【問4】

- ・大人になっても西東京市に住みたいかどうかについて、「住みたい」が10.3%、「どちらかというに住みたい」が24.1%で、合わせて34.4%が『住みたい』と回答している。
- ・一方、『住みたくない』の回答は「住みたくない」(12.3%)、「どちらかというに住みたくない」(16.3%)を合わせて28.6%となっている。
- ・中学校圏域別にみると、『住みたい』と回答した人の割合が一番高いのは「西部」(40.7%)、一番低いのは「北東部」(28.6%)であり、その差は12.1ポイントとなっている。

< 全体・中学校圏域別 >

